

2023年4月18日

報道関係者各位
プレスリリース

株式会社ウィッツ
(証券コード:4440)

製造業 DX を支援するデジタルツインソリューション 「SF Twin™ Cobot」販売開始

株式会社ウィッツ(本社:名古屋市中区 代表取締役社長:服部 博行 以下、ウィッツ)は、仮想空間技術を活用したデジタルツイン上で協働ロボットのティーチング作業を実現するソフトウェア「SF Twin™ Cobot」(以下、本製品)の販売を2023年4月18日より開始します。

◆背景

製造業においては人手不足の解消と生産性向上を目的としたデジタルトランスフォーメーション(以下、DX)(※1)の実現を求められており、DXを推進する解決策として協働ロボット(※2)の導入や、デジタルツイン技術などが注目されております。

製造現場では、人と一緒に働くことができる協働ロボットの導入が急速に進んでおります。また、製造現場から収集したデータを仮想空間上で再現する、デジタルツインの環境構築が進められています。



本製品は協働ロボットのデジタルツイン環境を容易に実現するソリューションです。製造業DXにおける2つの課題(協働ロボットの効率的な導入と運用、デジタルツイン環境の容易な構築)を同時に解決いたします。当社は本製品の導入が本邦の製造業DXを大きく推進するソリューションになると考えております。

◆現場課題とSF Twin™ Cobot

本製品は以下の2つの機能で製造業DXに大きく貢献しております。

<オフラインティーチング機能>

協働ロボットのティーチング作業(※3)は、現場で行うことを基本としているため、設備機材の間で立ち姿勢のまま長時間の作業が求められ、かつ稼働している製造ラインが停止している限られた時間で検討と検証を行う必要があるため、制限された作業環境での労働が強いられます。同時に、ロボットの動作検討の際には周囲への衝突干渉を防ぐため安全にも十分に配慮する必要があります。協働ロボットの導入が進行すると同時に、安全で効率的にティーチング作業を行う技術のニーズが高まっています。

本製品では、仮想空間内に配置した協働ロボットを使い、実機が存在しない状態でもロボットのティーチン

グ作業を可能としたオフラインティーチング機能を備えています。現場での作業という制限を取り払い、いつでもどこでもロボットの動作検討を可能とし、安全かつ効率的にロボットの導入作業を支援することで、協働ロボットの効率的な導入を実現いたしました。

<リアルタイムモニタリング機能>

製造ラインでは協働ロボットに対する十分な通信インフラ設備が整備されておらず、稼働中の協働ロボットの稼働情報を統合的に収集して管理することが困難です。事務エリアなど離れた場所からでは製造ラインでの稼働状況の把握ができず、製造ラインから離れることができない状況が発生しています。

本製品では、ロボットから出力される様々な情報をリアルタイムに収集して表示する機能を開発しました。画面に情報を表示することで、遠隔地で協働ロボットの稼働状況を把握できます。

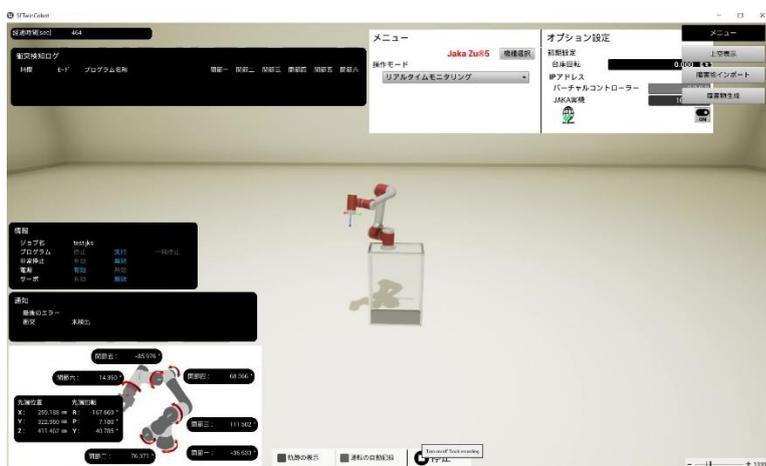


図1:リアルタイムモニタリング時の画面キャプチャ(SF Twin)



図2: 協働ロボット(実機)

◆販売開始と今後の展開について

本製品は、年間 150 ライセンスを出荷目標としております。

大手自動車メーカーなど一部の顧客候補に先行提供を開始しており、ユーザーの声を参考に更なる機能拡張を続けて参ります。

◆販売方法

製品の詳細については、以下の製品サイトよりご確認ください。

<https://sf-twin.jp/index.html>

◆参照

※1: デジタルトランスフォーメーション(DX)

AI や IoT などのデジタル技術を用いて、ビジネスモデルや企業文化などを変革し、競争優位性を確立すること。

※2: 協働ロボット

安全柵を設けて用途固定で使う産業ロボットと異なり、安全柵なしで人と一緒に働けるロボット。

可搬性やプログラミングの容易性から、複数用途で利用ができ、変種変量生産の観点でも注目されている。



※3: ティーチング作業

ロボットの制御を決めるプログラミング作業のこと。

【製品に関するお問い合わせ】

株式会社ウィッツ

営業室 TEL: (052)-218-5858

お問い合わせフォーム: <https://www.witz-inc.co.jp/contact/product/>

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社ウィッツ

IR 担当窓口: 佐藤・服部(孝) TEL: (052)-218-5018 Mail: ir-kanri@witz-inc.co.jp